

観光施策の展開について

観光交流課

1. 政策等の背景・目的及び効果

本市は、令和4年に「枚方市観光ロードマップ」を策定し、「市の魅力向上」「交流人口増」「経済活性化」を実現するため、様々な観光施策を推進しています。

その一環として、市駅近くの広大な河川空間を活かす「淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり計画」が令和5年8月に国に登録されたことを受け、令和6年4月に国や観光関連団体、アウトドア事業者、地元団体等からなる推進協議会を設立し、各種取り組みを進めているところであり、今般、高規格堤防（以下「堤防」という。）活用の方向性について報告するものです。

また、平成26年に市議会において可決された決議等を踏まえ、本市では市駅前における賑わいづくりのため、バンケット付きホテル誘致の支援を令和2年8月の総務委員協議会及びプレスリリースにより表明しました。今般、その具体的手法として、補助金制度を創設し、実施する考えであります。

<参考：計画概要>（令和5年8月登録時）

淀川舟運

大阪・関西万博への来場者を含む大阪・京都を行き来する海外・国内からの観光客を街なかへ

アクティビティ

街近、駅近の広大な自然空間で気軽にアウトドアアクティビティが楽しめる。

アウトドアの拠点

枚方市駅

3
枚方緊急船着場周辺

ハード	・利便性向上に向けた環境整備
ソフト	・淀川舟運の充実（サンセットクルーズ、船上レストランなど） ・モビリティによる回遊性向上

1
高規格堤防上面の河川空間

ハード	・シャワー・更衣室、受付・倉庫、物販・飲食などの拠点 ・底地整備、基盤整備
ソフト	・アクティビティの常時展開 ・集客イベントの定期開催 ・拠点運営（収益化）事業（物販など）

4
高規格堤防上面の河川空間（枚方出張所横）

・にぎわい施設整備を検討

2
多自然池の活用

ハード	ジャングルクルーズとして遊べる親水空間に整備
ソフト	水辺アクティビティ体験学習

多自然池の再生と活用

枚方公園駅

※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

2. 内容

2-1. かわまちづくり計画の推進について

① 堤防活用に係る経過

国において淀川舟運活性化協議会が発足されるなど、淀川を活用した賑わい創出の機運が高まる中、本市としてもこの間、淀川河川敷を活用したイベントや沿川自治体との連携を進めてきました。アウトドア・アクティビティを常時楽しめる状態を目指し、かわまちづくり計画に基づき、堤防上での拠点整備等に向けて、ニーズや事業可能性を検証する実証実験を開催してきました。

<これまでの主な取り組み>

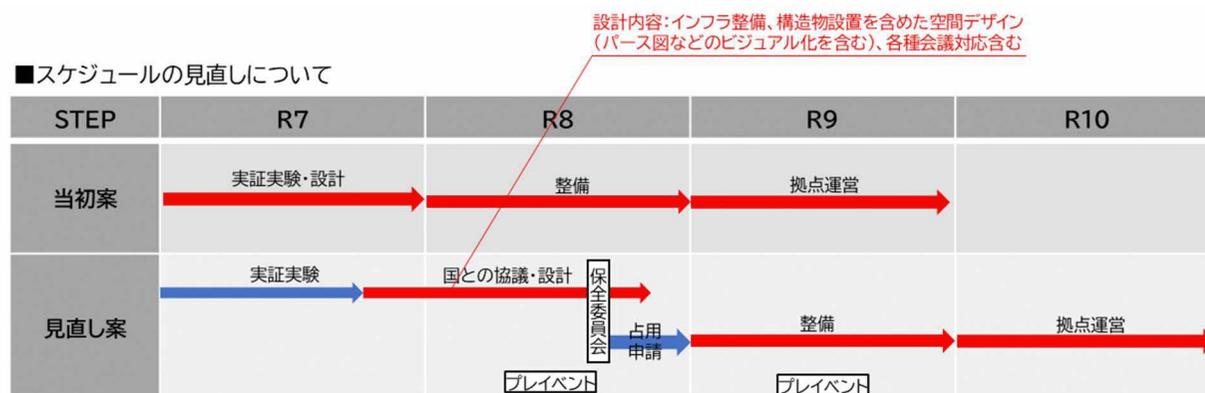
年度	取り組み内容
令和4年3月	国・自治体・経済団体等からなる淀川舟運活性化協議会発足（枚方市参画）。
令和4年5月	多自然池清掃活動とアクティビティイベントの初開催。
令和4年11月	国による堤防活用実証実験が初開催。たき火体験等のニーズ確認。
令和5年8月	淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり計画が国土交通省に登録
令和5年10月	市による堤防活用実証実験を初開催。大型河川公園イベント間との周遊に課題あり。
令和6年1月	国との連携による堤防活用実証実験。冬季キャンプで宿泊のニーズ把握。関西医大裏における事業化は医療環境への影響から課題あり。
令和6年4月	淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり協議会を発足（事務局：枚方市）
令和6年10月	市による堤防活用実証実験。堤防下の芝生広場と一体的に開催。広場と堤防間の視認性などに課題あり。
令和7年3月	国において船着場周辺における園路の再整備やトイレ新設、多自然池整備を実施。
令和7年10月	市による堤防活用実証実験。仮設デッキでキャンプサイトを展示。事業化ニーズ確認。

② 堤防活用に係る事業方針

項目	事業推進のポイント	事業推進の方向性
全体的な考え方	河川エリア全体の活性化を目指し、堤防上の活用を具体化	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント開催してきた中流・下流エリアと差別化したアウトドアのニーズを確認 ・ 親水空間としての多自然池エリアとの連動を推進 ・ 引き続き、河川公園管理センターとの連携を図る
河川法等を踏まえた河川空間における拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常時楽しめる拠点が必要 ・ 収益活動を行うにはオープン化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点は淀川河川事務所裏とし、関西医大裏は除く ・ 拠点は建築物によらず撤去可能な仮設物で構成 ・ 費用面を考慮しつつインフラ整備は効率的な手法を検討 ・ かわまちづくり協議会内から、別途運営に特化した運営協議会を発足することで備品所有・管理、運営等を目指す
具体的な事業	実証実験や河川法等の諸条件を踏まえる	サンセット等の眺望を売りにしたキャンプサイトやBBQエリアとして、ブランディングを行う

③ かわまちづくり計画のスケジュール

毎年秋開催の国の河川保全利用委員会に諮った上で事業推進する必要等があることから、拠点整備の完了は令和9年度を目指します。



2-2 バンケット付きホテル支援について

①経過

年度	主体・媒体	内容
平成26年9月	枚方市議会	枚方市駅周辺における宿泊施設の早期誘致に関する決議
令和2年6月	枚方市駅周辺地区市街地再開発組合	宿泊施設部分に係る固定資産税及び都市計画税の免除等の要望
令和2年8月	枚方市プレスリリース	③街区におけるバンケット付きホテルを誘致する場合の支援を表明
令和3年2月	京阪グループプレスリリース	③街区第3工区に整備する複合施設にホテル誘致することを表明
令和6年6月	カンデオ・ホスピタリティ・マネジメント	③街区第3工区にバンケット付きホテルを開業

②手法

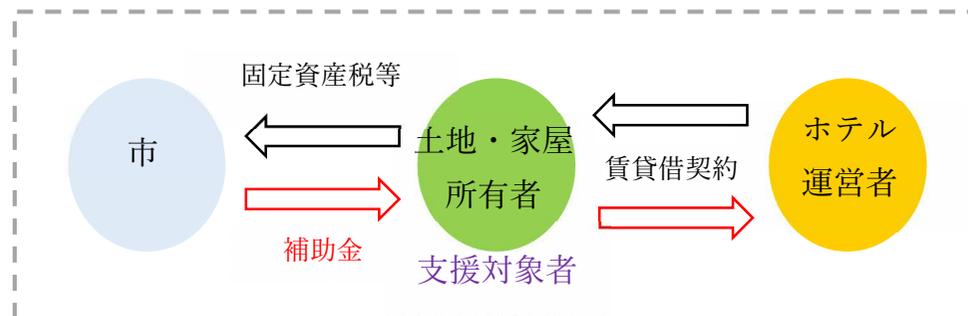
枚方市産業振興基本条例の理念に基づき、枚方市補助金等交付規則の規定に基づいて交付する「枚方市バンケット会場付きホテル支援補助金交付要綱」を制定する考えです。

＜参考＞枚方市産業振興基本条例との関連

枚方市産業振興基本条例	従来の産業の枠組みを超えた連携を図ることで、産業を振興し、市民生活の向上につなげるため平成22年10月1日に施行。商業、工業、農業、 <u>観光</u> の4分野における方針を示し、実現のための市の役割、事業者の役割等を定める。 同条例と本施策の対応：第4条（市の役割）より抜粋 (6) 観光の活性化のための施策
-------------	--

③支援対象

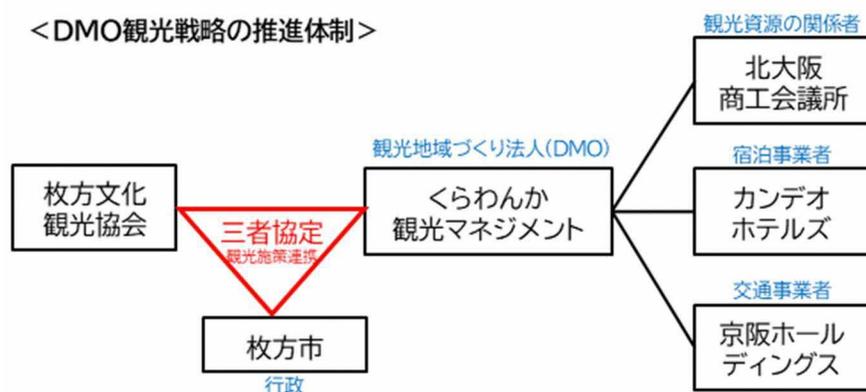
補助対象者	理由
京阪ホールディングス株式会社	ホテルを含む土地・家屋の所有者であるため



④支援概要

区分	内容	考え方
支援理由	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興及び賑わいの創出 都市機能の充実による地域経済活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 観光旅客の来訪及び滞在を促進 ビジネスパーソンの来訪及び滞在を促進 市民及び市内事業者等がバンケットを利用（集会・会議等）
支援要件	<ul style="list-style-type: none"> 客室 100 室以上 バンケット（面積 150 m²以上）付き 	<ul style="list-style-type: none"> 誘客につながる規模 大人数が集まれるコンベンション機能を想定（地域産業活性化）
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産税及び都市計画税の相当額を 5 年間補助 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな都市機能として安定した事業継続を目的に支援することで、地域経済の活性化・観光振興・賑わい創出を目指す

<DMO観光戦略の推進体制>



誘客や地域経済の活性化に繋がる取り組みについては、くらわんか観光マネジメントや北大阪商工会議所等と連携することで、より一層推進していきます。

3. 実施時期等（予定）

<かわまちづくり>

- 令和8年度
- ・河川占用諸手続き及び整備内容の具現化（仮設物設置）によるプレイベント
 - ・設計の完了と整備費用の算出（令和9年度当初予算要求）
- 令和9年度
- ・整備実施と運営準備

<バンケット付きホテル支援>

- 令和8～12年度
- ・補助金交付手続き（固定資産税納付の翌年度に補助金交付）

4. 総合計画等における根拠・位置付け

総合計画 基本目標 地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち

施策目標18 人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち

施策目標19 地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち



5. 事業費・財源及びコスト

<かわまちづくり>

《事業費》 令和7年度 設計業務委託費 11,580千円（繰越明許予定）
令和8年度 プレイメント事業委託費 4,000千円

《財 源》 一般財源

<バンケット付きホテル支援>

《事業費》 令和8年度 約25,000千円

《財 源》 一般財源